

ひとみの教室(弱視通級指導教室)について

【視覚障がい】

視覚障がいとは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいいます。

学習面では、動作の模倣や文字の読み書き、事物の確認などが苦手な場合があります。

また、生活面では、移動が困難だったり、相手の表情等が読めずコミュニケーションが難しくなる場合があったりします。

学級ではこんなことに困っています…

- 眼鏡をかけても黒板の文字が見えづらく、書き写したり探したりするのに時間がかかってしまい、疲れやすいです。
- 教科書やプリントの文字が読みづらく、行を飛ばしたり読み間違えをしたりしてしまいます。また、画数の多い漢字や、形が似ている文字の読み書きを間違えやすいです。
- 明るいところがまぶしかったり、暗いところが極端に見えづかったりすることや、球技ではボールの軌道が見えづらいので、うまくいかないことがあります。
- 見えづらくても、見えない状況についてまわりに説明することが難しいです。

【ひとみの教室では】

- ☆子どもが「見えづらさ」に自ら対応していくための手段を教え、弱視レンズ等を活用できるように指導しています。
- ☆見えづらいために苦手になりがちな学習内容等を取り出して個別に指導し、子どもの学習活動を支援します。
- ☆担任との懇談や授業参観、電話連絡等を通じて、子どもの在籍校と連携しながら、学校生活が過ごしやすくなるよう支援します。

【本人や保護者の方の声から】

- 周りの子どもと違った行動や見たことがない道具(ルーベや単眼鏡など)を使うと他の子どもたちも気になるので、あらかじめ先生から話してもらえると助かります。
- 低学年の時は特になのですが、声かけをまめにしてほしいと思います。自分のことをよく見ていてくれると思えるだけで気持ちが前向きになれると思います。
- 気持ちがあせると足元に気が回らなくなり、転倒してしまうこともあるので、時間に余裕があるといいです。
- 先生の目線や「あそこ」や「それ」といった指示だけでは目標の確認ができないので、具体的な表現してもらえると助かります。
- 座席が後ろになると、先生の手元が見えづらくなり、指示などが分からないことがあります。



きこえの教室(難聴通級指導教室)について

【聴覚障がい】

聴覚障がいとは、身の回りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態をいいます。

聴覚障がいのある子どもたちには、できるだけ早期から適切な対応を行い、音声言語をはじめその他多様なコミュニケーション手段を活用して、その可能性を最大限に伸ばすことが大切です。

学級ではこんなことに困っています…

- 近くで顔が見える状態だと、表情も見え、自分に話されていると分かるのですが、少し離れた所や背後から話しかけられたりすると、気づけずに無視していると思われることがあります。
- いつも周りを見て何をするのか確かめています。きょろきょろして落ち着きがないと思われるがちです。
- 周囲がざわざわしていると、近くても相手の話すことが分かりません。話し手が数人いて、次々と変わっていくと、誰が話しているか分からなくなります。そのため、グループでの話し合いに参加したいのに入るのが難しいです。

【きこえの教室では】

- ☆「人とかかわることは楽しい」と思える体験や「話しを分かってくれた」という思いを積み重ねます。
- ☆「伝えたい」「聞きたい」という意欲や自信を育てます。
- ☆担任との情報交流や授業参観、懇談を行い、「子どもの聞こえにくさ」や「情報保障のための配慮」について共通理解を図るなどして、子どもの学校生活を支援します。

【本人や保護者の方の声から】

- 音楽のテストで、みんなの前で歌わなくてはならなくて、オンチや変だと思われそうで不安でした。
- 喋れているからといって、この子は大丈夫、聞こえているんだねと思わないでほしいです。
- 聞こえ方や補聴器などによっても違うことがあるので、個々に応じて接してくれると助かります。
- 自分が嫌な気持ちになったことなどについて、先生からも説明してもらえると助かります。
- 分からないから見て考えて行動しているのに、「聞こえる」と思われ苦勞が伝わらないです。
- 歌ったり演奏したりするのは、どんなに家で練習しても限界があります。できなくても努力していることが認められないと、心が折れます。

